5S から始める中小企業の組織活性化術

第8回 さあ 「5S 活動」を始めよう！ 4

「ルール」と「チェック体制」について

「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躾(しつけ)」と5S の各要素について説明をしてきましたが、いよいよ「運用」「運営」のお話です。

なぜ、「5S 活動」が続かないのか

さて、何かのきっかけで「5S 活動」に取り組んだとしましょう。セミナーで話を聞いて、あるいはよその企業の取組みを知って、経営者の鶴の一声から、あるいは「5S 委員会」を立ち上げて、5S を始めたとします。

仮に「全社一丸」で取り組んだとしても、それが 1 ヶ月、3 ヶ月、半年と続いていくうちに、いつの間にか当初の勢いを失い、モチベーションが落ちて、いつの間にやら元の木阿弥。知らない間に元の状態に戻ってしまった、という組織は少なくありません。実は「5S 活動」は、立ち上げることより、維持することの方が難しいプロジェクトです。

【シンプルルール】が必要！

「5S 活動」が単なる「活付け」で終わってしまう理由は、本連載の最初に書きましたが、活動の目的が明確でないことが原因です。何のために、新しい行動を起こすかという、目的がしっかりしていない組織では、5S が単なる「大掃除」で終わってしまいます。同様に、「5S 活動」が浸透しない理由もまたそこにあります。

そして、5S がなかなか維持できない理由は、「ルールが不明確」な点にあります。いやいや、細かいルールを決めて、壁に張り出し周知を図っている、という組織もありますが、実際にそのように出来ているかは少々疑問が残ります。組織のシステム構築において、もっとも重要なことは「シンプル」であるということです。複雑な仕組みは定着しづらいものです。

「ルールつくり」も全員参加で！

「5S 活動」がある程度目に見えてきた段階で、推進者(推進チーム)は、5S のルールつくりに着手する必要があります。そのときの条件は、ふたつです。【A4 2 枚のルール】と、そこに書かれたことは【100%守る】ということです。「A4 2 枚」とは、両面コピーをかければ、A41 枚に収まります。A41 枚ならば、全員に配布できます。逆に全員に配布できない「ルール」だから、守れなかったということもいえます。同時に、限られたスペースには複雑なことは書けません。当然「シンプル」な表現になります。つまり、核心を突いた短いセンテンスでしか構成できません。実は、この短いセンテンスが、活動を維持していく秘訣です。

そして、その「ルールつくり」も、推進者や推進チームが「たたき台」を作った後、各部門に意見を出させることが重要です。ある部署や役職者が一方的に作った「ルール」では、一番危険な「やらされ5S」になってしまいます。当然、話し合いの中では、さまざまな意見が飛び出してきますが、そこは、自分たちの目指す5S のや組織の将来像からレベルを決めて、最終決定を行いましょう。

【5S チェック体制】を作ろう

「5S ルール」が出来上がったら、それに基づいて、「5S チェック表」を作ります。チェック表は、ルールに定められている故とお中心に、その他チェックすべき人間が注意しなければならない内容になります。

そして、その「チェック表」を元に、定められた間隔で、相互チェックを行う仕組みを作ります。定められた期間も自分たちで決めましょう。1 週間に一度という組織もあれば、1 ヶ月に一度という組織もあります。これもまた、自分たちで決めるべきことです。

このあたりの「業種別事例」については、弊社発行の「5S マニュアル」に詳細に記載しておりますので、是非ご参考ください。

さて、次回からは「5S 活動」と「利益」という、組織にとって一番重要なテーマについて書かせて頂きます。